



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



札幌部会(第26回)

日時:	2021年6月12日(土) 15:00 - 17:00
場所:	ZoomによるWeb会議
参加者:	24名参加

【内容要旨】

- 藤牧朗先生から、「ルーブリックをつくっちゃおう、つかっちゃおう」の資料に基づいて、ルーブリック導入により憶える形式の問題を無くした取組の報告が行われた。ルーブリックは学ぶ人に学び方を明示するもので、暗記中心で終わることは馴染まないものであることや、はじめは3段階から作りはじめていること、目的によって作り分けていることなど、実際に作成したルーブリックの具体を投影しながら説明された。藤牧先生の立ち位置としては、ルーブリックは学習者が自分で考えて自分で行動できるようになるための道具であり、自律的な市民を育てるための手段として活用しているということである。
- 川瀬雅之先生から、「投資計画ゲーム 教材開発の取組み⑤」の資料に基づいて、これまでの道内7空港民営化に関する「授業プランの変更点」(短期の投資→30年後を見据えた中長期の投資)や、「新たな授業プランの概要」が説明された。授業プランの概要(全5時間)は、5~6名の7グループ(道内7空港別)に分かれて、「雇用創出に結びつく投資」を呼び込む内容を考えるものである。質疑応答の中では、グループの人数が多くなると学びが希薄になり、逆にグループ数が多くなると発表数が多くなるので、ICTを活用して同時並行で進めたりする方法もあるなどの情報提供が行われた。  
 航空経済学の専門家である加藤一誠先生からは、民営化の流れは経済原則ではなく、政治的な流れで出てきたもので、北海道の札幌圏以外の人口減少が深刻になっているという地域問題の明確化が背景にあることが説明された。また、「交通の赤字」について平均費用曲線、限界費用曲線、需要曲線を組み合わせたグラフから、航空は派生需要であって、空港を使って地域活性化を考える教材にしていく必要性について説明された。空港はあくまで地域活性化を考える道具でしかなく、何のために投資をするのかを考えさせないと、ただの遊びになってしまう恐れがある旨の指摘・助言がなされた。
- 河原和之先生から、「SDGsと経済教育」の資料に基づいて、「①フラワーロス解消」と「②ジグソー学習 どうする？ 買い物難民！」の2つの実践事例の紹介が行われた。特に事例②のように、少子高齢化や限界集落化によって買い物難民が生じている状況を考察する実践は、北海道のような人口減少地域での実践に参考となる試みである。質疑応答の中で、新井明先生の「教科書に書かれている理論・概念の活用という視点での教材作成の在り方」と、河原先生の「新聞などの問題から入るとい教材作成の在り方」についての新井先生・河原先生の方法の違いが展開された。

[文責:山崎辰也]

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
--	--	--	---	------------------------------------

次回開催予定: 2021年9月18日(土) 15:00~17:00

議題 北海道の地域教材、経済に関する授業案の交流など